

Magic xpi Installation Guide



OUTPERFORM THE FUTURE™

The information in this manual/document is subject to change without prior notice and does not represent a commitment on the part of Magic Software Enterprises Ltd.

Magic Software Enterprises Ltd. makes no representations or warranties with respect to the contents hereof and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose.

The software described in this document is furnished under a license agreement. The software may be used or copied only in accordance with the terms and conditions of the license agreement. It is against the law to copy the software on any medium except as specifically allowed in the license agreement.

No part of this manual and/or databases may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying, recording or information recording and retrieval systems, for any purpose other than the purchaser's personal use, without the prior express written permission of Magic Software Enterprises Ltd.

All references made to third-party trademarks are for informational purposes only regarding compatibility with the products of Magic Software Enterprises Ltd.

Unless otherwise noted, all names of companies, products, street addresses, and persons contained herein are part of a completely fictitious scenario or scenarios and are designed solely to document the use of Magic xpi.

Magic™ is a trademark of Magic Software Enterprises Ltd.

Btrieve® and Pervasive.SQL® are registered trademarks of Pervasive Software Inc.

IBM®, Topview™, System i5®/System i®/IBM i®, pSeries®, xSeries®, RISC System/6000®, DB2®, WebSphere®,

Domino®, and Lotus Notes® are trademarks or registered trademarks of IBM Corporation.

Microsoft®, FrontPage®, Windows™, WindowsNT™, ActiveX™, Exchange™, Dynamics® AX, Dynamics® CRM, SharePoint®, Excel®, and Word® are trademarks or registered trademarks of Microsoft Corporation.

Oracle®, JD Edwards EnterpriseOne®, JD Edwards World®, and OC4J® are registered trademarks of the Oracle Corporation and/or its affiliates.

Google Calendar™ and Google Drive™ are trademarks of Google Inc.

Salesforce® is a registered trademark of salesforce.com Inc.

SAP® Business One and SAP® R/3® are registered trademarks of SAP AG in Germany and in several other countries.

SugarCRM is a trademark of SugarCRM in the United States, the European Union and other countries.

Linux® is a registered trademark of Linus Torvalds.

UNIX® is a registered trademark of UNIX System Laboratories.

GLOBEtrrotter® and FLEXIm® are registered trademarks of Macrovision Corporation.

Solaris™ and Sun ONE™ are trademarks of Sun Microsystems Inc.

HP-UX® is a registered trademark of the Hewlett-Packard Company.

Red Hat® is a registered trademark of Red Hat Inc.

WebLogic® is a registered trademark of BEA Systems.

Interstage® is a registered trademark of the Fujitsu Software Corporation.

JBoss™ is a trademark of JBoss Inc.

GigaSpaces, GigaSpaces eXtreme Application Platform (XAP), GigaSpaces eXtreme Application Platform Enterprise Data Grid (XAP EDG), GigaSpaces Enterprise Application Grid, GigaSpaces Platform, and GigaSpaces, are trademarks or registered trademarks of GigaSpaces Technologies.

Clip art images copyright by Presentation Task Force®, a registered trademark of New Vision Technologies Inc.

This product uses the FreeImage open source image library. See <http://freeimage.sourceforge.net> for details.

This product uses icons created by Axialis IconWorkShop™ (<http://www.axialis.com/free/icons>)

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (<http://www.cmu.edu/computing/>). Copyright © 1989, 1991, 1992, 2001 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes software that is Copyright © 1998, 1999, 2000 of the Thai Open Source Software Center Ltd. and Clark Cooper.

This product includes software that is Copyright © 2001-2002 of Networks Associates Technology, Inc All rights reserved.

This product includes software that is Copyright © 2001-2002 of Cambridge Broadband Ltd. All rights reserved.

This product includes software that is Copyright © 1999-2001 of The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.

All Rights Reserved.

All other product names are trademarks or registered trademarks of their respective holders.

Magic xpi Installation Guide - Magic xpi 4.9

Copyright © 2017 by Magic Software Enterprises Ltd. All rights reserved.

Contents

1 Magic xpiのインストール

インストールを始めましょう	6
ウェルカム画面	8
インストールディレクトリ	9
セットアップ タイプ	10
プログラムフォルダーの選択	10
機能の選択	11
GigaSpacesの設定	11
データベース	13
サマリー	18
インストールウィザード完了	18
手動インストールとMagic Monitor サーバサービスの開始	19
言語サポート	20

2 Magic xpiのファイル

Magic xpi インテグレーションプラットフォームのファイル	21
64-Bit サポート	23

3 コンポーネントの設定

Directory Scanner	25
Domino	25
Dynamics AX 2012	26
Dynamics CRM	26
Email	26
Encryption	27



Exchange	27
File Archive.....	27
File Management.....	27
File Splitter.....	27
FTP.....	28
Google Calendar.....	28
Google Drive.....	28
HL7	28
HTTP	29
IBM i	29
JD Edwards Enterprise One.....	29
JD Edwards World	29
JMS	30
LDAP	30
Magic xpa Utility.....	30
Microsoft Excel.....	30
Microsoft Word.....	30
MQTT.....	30
MSMQ.....	31
.NET Utility	31
Notes DB.....	31
OData	31
Salesforce	32
SAP A1.....	32
SAPB1.....	32
SAP R/3	32
ServiceMax.....	33
SharePoint.....	33



OUTPERFORM THE FUTURE™

Sugar	33
TCP Listener	33
Validation	33
WCF Client	34
WebSphere MQ	34
XML Handling.....	34
XSLT.....	34

4 Magic xpi インストール後の作業

MSSQLの設定	35
GigaSpacesの確認	36

5 Magic xpiのライセンス

ライセンス管理	37
ライセンスタイプ	38
Magic xpiライセンスファイルのインストール	39
ライセンスFeatures.....	40

A システム前提条件

システム前提条件	41
開発環境.....	41
実行環境.....	41
データベース前提条件	42
内部データベースプラットフォームサポート	43

1 *Magic xpi*のインストール

この章ではMagic xpi のインストールプロセスの各ステージについて説明します。

- インストールを始めましょう
- 言語サポート

インストールを始めましょう

Magic xpiをインストールする前に以下をご確認ください。：

- Magic xpi サーバがサポートされている内部データベースにアクセスできることを確認します。
- システムがMagic xpi 前提条件を満たしているかを確認します。([Appendix A, システム前提条件](#) を参照).
- 以前Magic xpi をインストールした場合は、その際の**Magic.ini**ファイルのバックアップがあるかどうかを確認してください。
- .NET Framework 4.0 がコンピュータにインストールされていることを確認します。
- Magic xpi 4.6がコンピュータにインストールされている場合はアンインストールします。



i Magic xpi をスペースを含むフォルダーにインストールする際は、8dot3name サポートを有効にしておかなければなりません。

インストールする前に、8dot3nameが有効かどうかを確認してください。確認するには、Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。:

fsutil 8dot3name query <インストールしようとするドライブ>

例えば、CドライブにMagic xpiをインストールする場合は、次のコマンドを実行します。:

fsutil 8dot3name query c:

fsutil ユーティリティは **C:\Windows\system32** に存在します。もしコマンドが見つからない場合は、まず、**system32** フォルダーに移動してください。

コマンドの結果であるボリューム状態が**0 (8dot3名の作成は有効です)**で、レジストリの状態が**既定値の2(ボリューム単位で設定します)**なら8dot3nameは有効でインストールを続行することができます。

8dot3nameが有効でない場合、Administrator権限で以下のコマンドを実行します。:

fsutil 8dot3name set <インストールしようとするドライブ> 0

例えば、Cドライブに対し8dot3name を有効にするなら、次のコマンドを実行します:

fsutil 8dot3name set c: 0

設定を有効にするためにコンピュータの再起動が必要になる場合があります。

http://en.wikipedia.org/wiki/8.3_filename

これでMagic xpi のインストールを行うことができます。



ウェルカム画面

Magic xpiインストールウィザードを実行すると、**ウェルカム画面**が表示されます。

次へボタンをクリックすると**使用許諾契約画面**が表示されます。内容を詳細にご確認の上、契約に同意する場合は**次**へボタンをクリックし、**インストール先選択画面**を表示します。

すでにMagic xpi がインストールされている場合、**次**へボタンをクリックするとアップグレード処理が始まります。

- 古いバージョンのMagic xpiがマシンに2つインストールされている場合は、いずれか1つを手動でアンインストールしてから、もう一方をMagic xpi 4.9にアップグレードするように求められます。

i アップグレード処理中：

- 旧バージョンのMagic xpiでインストールされた機能のみがアップグレードされます。
- Magic xpi 4.9へのアップグレード中、旧バージョンはバックアップされません。

インストールディレクトリ

インストール先選択 画面でMagic xpi をインストールするフォルダーまたはディレクトリを入力します。デフォルトではMagic xpi は**C:\Magic xpi x.x** フォルダーにインストールされます。このディレクトリにインストールするには、**次へ**をクリックします。Magic xpiを別の場所にインストールする場合は、**参照**をクリックして必要な場所を選択します。インストールウィザードで選択を確認するメッセージが表示されず。**次へ**をクリックして次の画面に進みます。

そして誰がアプリケーションを使用できるのかを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。:

- **このコンピュータを使用する全ユーザ : Anyone who uses this computer (all users)**
- **私専用 : Only for me (<コンピュータのユーザ名>)**



- Magic xpi を空のフォルダーにインストールする必要があります。
- (あるいは)のような特殊文字がインストールパスに含まれている場合、GigaSpacesは動作しません。例：C:\Program Files (x86)

次へをクリックし、**セットアップタイプ**画面を開きます。



セットアップタイプ

この画面で、以下のセットアップタイプを選択します。:

- **標準 (Typical)**: このオプションを選択すると、Magic xpiインストール用のショートカットフォルダが自動的に作成されます。また、[機能の選択](#)画面に表示されるすべての機能は、デフォルトでインストールされます。この画面の後、[GigaSpacesの設定](#)画面に直接移動します。
- **カスタム (Custom)**: このオプションを選択すると、[プログラムフォルダの選択](#)画面が開きます。必要なフォルダ名を選択すると、[機能の選択](#)画面が表示され、インストールする機能を選択することができます。

プログラムフォルダの選択

この画面では、**プログラム**メニューに表示されるMagic xpi ショートカットの名前を入力することができます。デフォルトの名前が表示され、これを変更することができます。選択したプログラムフォルダがすでに存在する場合は、新しいショートカット名を入力するかどうか尋ねられます。**Yes**を選択すると、プログラムフォルダを変更できます。**No**を選択すると、選択したプログラムフォルダが既存のプログラムフォルダを置き換えます。この画面は、Setup Type画面でCustomを選択した場合にのみ使用できます。この画面は [セットアップタイプ](#) 画面で**カスタム (Custom)**を選択した場合にのみ使用できます。

次へをクリックして[機能の選択](#)画面を開きます。



機能の選択

この画面ではインストールするMagic xpiの機能を決定します。機能は以下の通り：

- **Server:** 統合プロジェクトを実行するMagic xpi サーバ。
- **Studio:** コンポーネントツールキットを含むMagic xpiスタジオ。
- **Monitor:** プロジェクト実行時にモニタリング機能を提供する Magic xpi モニタサーバ。
- **GigaSpaces:** コンピュータに GigaSpaces インフラストラクチャをインストールする。
- **Internal DB:** コンピュータにMagic xpi 内部データベースをインストールします。
- **Systinet Web Service Framework:** Systinet Webservice framework をインストールします。
- **Sample Projects:** さまざまなMagic xpi の機能を理解するのに役立つ一連のサンプルプロジェクトをインストールします。
- **Requesters:** Java および .NET リクエスタをインストールします。

この画面は、[セットアップタイプ](#) 画面で**カスタム(Custom)**を選択した場合、または既存のインストールを変更する場合にのみ使用できます。**次へ**をクリックしてこの画面を終了し、**GigaSpacesの設定**画面に移動します。

GigaSpacesの設定

GigaSpacesインフラストラクチャは、大量のデータをメモリに格納するために連携する複数のマシンインスタンス（物理または仮想）上で実行される複数のサーバープロセスで構成されているため、高性能、弾性スケーラビリティ、フェイルセーフ冗長性を実現します。この画面では、GigaSpacesインフラストラクチャの詳細を設定できます。

- 画面の**GigaSpacesの設定方法を指定する**セクションで、**グリッドサービスエージェント (GSA)** をサービスとしてインストールするチェックボックスをオンにします。これにより、Magic xpiのインストール時にGSAサービスが自動的にインストールされます。GSAサービスの名前が**サービス名**フィールドに表示されます。



- 画面の**スペース設定**セクションで以下のプロパティを設定します。:
 - 開発マシンでのみスペースを実行するように設定する場合は、**開発マシン**チェックボックスをオンにします。このオプションを使用すると、GigaSpacesの設定は1つのGSC（512MBのヒープが割り当てられている）、1つのパーティションにバックアップがない状態、およびLUSが実行中の状態でプリセットされます。
 - クラスタ環境にスペースを実行、あるいは手動で設定を行う場合は、**開発マシン**チェックボックスをオフにします。ここでは、必要に応じてデフォルト値を保持し、後に手動で変更することも、必要な値を今すぐ入力することもできます。**次のロケータを使用する(ユニキャスト)**欄に、LUSサーバとして指定したアプリケーションサーバーのIPアドレス（カンマ区切り）を入力します。**GSC数**欄に、実行するグリッドサービスコンテナの数を入力します。**GSCメモリアロケーション (MB)**欄に、GSCに割り当てるメモリ量を入力します。
このマシン上でローカルにLUSを実行するには、**LUS実行**チェックボックスをオンにします。
 - **スペース実行**セクションの**パーティション数**欄に、スペースに含めるパーティションの数を入力します。最後に、**パーティションバックアップ**チェックボックスをオンにして、各パーティションのバックアップを作成します。

GigaSpaces ルックアップ サービス (LUS) の詳細情報については、以下のリンクを参照してください:

<http://wiki.gigaspaces.com/wiki/display/XAP9/The+Lookup+Service>

この画面での設定が完了したら、次へボタンをクリックし、「データベースサポート画面セットアップ情報」画面を表示します。

i 上述の**GigaSpaces** の構成画面でGigaSpaces GSA サービスのインストールを自動インストールを選択しなかった場合、以下のコマンドでサービスのインストール、アンインストールを手動で行うことができます。:

- **Install_GSA_service.bat** (GSAのインストール)
- **Uninstall_GSA_service.bat** (GSAのアンインストール)

これらのファイルは以下のフォルダーに配置されています。:

<Magic xpi インストール先>\Runtime\OS_Service\scripts

Windows 7以降のオペレーティング システムでは、管理者権限にてこれらのコマンドを実行する必要があります。

データベース

データベースサポート画面で、今すぐデータベーステーブルを作成するスクリプトを実行するチェックボックスをオンにすると、インストール中にデータベースのテーブルスペースとテーブルを作成します。このチェックボックスを選択しない場合、インストール中にテーブルが作成されず、後で手動でテーブルを作成する必要があります。

サポートされているデータベースの詳細については、[互換性ガイド](#)(PDFファイル)を参照してください。

注: MSSQL JDBCドライバ(JARファイル)のみ、Magic xpiインストールの一部として提供されています。他のDBMSを使用する場合は、そのDBMS用のJDBC ドライバのjar ファイルが必要です。

内部データベースとして他のDBMSを使用するには:

1. JDBCドライバ jarファイルを以下のフォルダにコピーします。:
<Magic xpiインストール先>\Runtime\java\DatabaseDrivers
2. **datasource.xml**ファイルにデータベース設定を指定します。
datasource.xmlで定義された**driverClassName**がJDBCドライバと互換性があることを確認します。



次に、Magic xpiの内部データベースとして使用するデータベースを選択します。Magic xpiは以下のデータベースをサポートしています：

- [MSSQL](#)
- [Oracle](#) (OCI 32-bit のみ)

データベースを選択後、**次へ**をクリックします。

i Magic xpiインストーラーは**db**という名前のサブフォルダーをDB スクリプト格納用に作成します。Magic xpi がサポートしているDBMS 毎にサブフォルダーが作成されます。データベースを後でインストールすることを選択した場合は、これらのスクリプト (必要なデータベースの下) からインストールすることができます。各フォルダーにはスクリプトの実行方法について説明されている**Read me**ファイルが準備されています。

Magic xpiのインストール中に内部データベース作成に関するエラーが発生した場合、ログファイルが各DBMSフォルダー毎に作成されます。

IBM i データへのアクセス

詳細は「Magicxpi4x-DB2400.pdf」を参照ください。



MSSQL

MSSQLを選択すると、データベースサポート画面が開きます。

i Magic xpiをインストールする前に、**SQL ServerとWindows認証モード (MSSQLサーバ特性ダイアログボックスのセキュリティセクション)**が選択されていることを確認してください。インストール処理中にMSSQL内部データベースを自動的に作成したい場合に使用します。

Magic xpi をインストールするコンピュータにデータベースがインストールされている場合、サーバの**名称** フィールドにはコンピュータ名が設定されています。デフォルトは<コンピュータ名>**SQLインスタンス instance**(存在する場合)です。

リモートデータベースサーバで使用する場合、**選択** をクリックし、**サーバー一覧** を開きます。**サーバー一覧**からデータベースがあるコンピュータ名を選択し、**選択** をクリックし、**サーバー一覧** を閉じます。

SQL Server資格情報を使用してデータベースを認証するには、**Windows認証**チェックボックスをオフのままにして、データベースのユーザー名とパスワードを入力します。ユーザ資格情報によって、ユーザとデータベースを作成するための十分な権限が与えられていることを確認する必要があります。Windows認証情報を使用してデータベースを認証するには、**Windows認証**チェックボックスをオンにします。

内部データベースをWindows認証モードで作成する場合は、次のようにデータベースを手動で構成する必要があります。:

1. **datasource.xml** ファイル (<Magic xpi インストール先>\Runtime\config に存在)で、**username** と**password** プロパティを削除します。例、以下のテキストを削除します。:
username="magicxpi4_1" password="MagicPass#3"
2. **;integratedSecurity=true** をurlプロパティに追加します。例、ファイルは以下のテキストのようになります。**username**と**password** が削除され、赤字のテキスト部分が追加されます。:

```
<datasources>
  <datasource id="1" hibernate.default_schema="dbo"
    hibernate.dialect="org.hibernate.dialect.SQLServerDialect"
    hibernate.default_catalog = "magicxpi4_1"
    driverClassName="com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver"
    url="jdbc:sqlserver://AVI-8-
LP\SQLEXPRESS:1433;databaseName=magicxpi4_1;integratedSecurity=true"/>
</datasources>
```

Windows認証モードを使用する必要があり、GigaSpacesインフラストラクチャが64ビットJVMを使用するように設定されている場合は、次のように<Magic xpi インストール先>\Runtime にある2つのファイルの名前を変更する必要があります。:

1. **sqljdbc_auth.dll** ファイルのファイル名にテキストとして**_32bit** を追加します。新たなファイル名は**sqljdbc_auth.dll_32bit**となります。
2. **sqljdbc_auth.dll_64bit** ファイルのファイル名からテキストの**_64bit** を削除します。新たなファイル名は**sqljdbc_auth.dll**となります。

i 後でデータベースをインストールすることを選択した場合、データベースに関する環境変数は**magic.ini**ファイル内に作成されますが、いくつかの環境変数はセミコロンでコメントにされています。

例えば、Oracleの場合、**magic.ini** ファイル内の
DB_SERVER_NAMEは以下のようにコメントになってしまいます。:

```
;DB_SERVER_NAME=dbservername
```

次へをクリックし、サマリー画面に進みます。

Oracle

データベースサーバが別のコンピュータにある場合は、**選択** をクリックして **サービス一覧**を開きます。**サービス一覧**から、データベース用にアクセスするOracle データベース クライアントの名前を選択します。クライアントを選択し、**選択**をクリックします。**サービス一覧**を閉じ、データベースのユーザ名とパスワードを入力します。スキーマを作成するのに十分な権限がユーザ資格情報に与えられていることを確認する必要があります。

- i** Oracleを内部データベースとして構成する場合、Magic xpiは実行時に Oracle Thin Clientを使用します。インストールでは、スキーマと表の作成にOracleクライアントのインストールを必要とするfat clientが引き続き使用されます。

datasource.xml ファイルでは、データソースURLは次の構文を使用します：

```
jdbc:oracle:thin:@<tns_entry>
```

例：

```
jdbc:oracle:thin:@MyTNSAlias
```

さらに、インストール時に**TNSNAMES.ORA**ファイルのフォルダへのパスを含む**oracle.net.tns_admin jvm**引数を使用し、

```
GigaSpaces/bin/ magicxpi-setenv.bat >
```

```
ADDITIONAL_OPTIONSプロパティを更新します。例：
```

```
set ADDITIONAL_OPTIONS=%ADDITIONAL_OPTIONS% -  
Dcom.magicsoftware.ibolt.home=%MAGIC_XPI_HOME%\ ru  
ntime -Doracle.net.tns_admin=$ORACLE_HOME/  
network/admin
```

次へをクリックし、サマリー画面に進みます。

サマリー画面

Magic xpi インストールウィザードがMagic xpi のインストールの準備が完了したことがサマリー画面に表示されます。インストール設定を変更する必要がある場合は、**戻る** をクリックして前の画面に戻ります。準備ができたなら、**次へ** をクリックしてインストール処理を開始します。

インストールウィザード完了

インストールウィザードが正常にインストールを完了すると、インストール完了画面が開きます。この画面には、次の3つのチェックボックスがあります。:

- **はい、ReadMe ファイルを表示します:** リリースノートを開くにはこのチェックボックスを選択します。
- **はい、Magic xpi を直ちに起動します:** Magic xpiを開くにはこのチェックボックスを選択します。
- **はい、MSSQL ログファイルを表示します:** MSSQLログファイルを開くにはこのチェックボックスを選択します。

完了 をクリックし、インストールウィザードを終了します。

i Windows 7マシンにMagic xpiをインストールすると、スタジオ起動時に以下のエラーが表示される場合があります：**一つ以上のコンポーネントが見つかりません。アプリケーションを再インストールしてください。**これを解決するには、Microsoft Visual Studio 2010 Shell(Isolated)再頒布可能パッケージを次のURLからインストールします：

<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=1366>



手動インストールとMagic Monitor サーバサービスの開始

Magic Monitor サーバサービスのインストール

インストールの完了後、<Magic xpiインストール先>\Runtime\OS_Service\scripts フォルダに移動します。このフォルダには以下が含まれます：

- Magic xpi GSA (**Install_GSA_service.bat**) と Magic Monitor Server (**Install_MagicMonitor_services.bat**) サービスのインストールスクリプト。
- Magic xpi GSA (**Uninstall_GSA_service.bat**) と Magic Monitor Server (**Uninstall_MagicMonitor_services.bat**) サービスのアンインストールスクリプト。

次に、以下を行います：

1. コマンドプロンプトを開きます。（管理者権限で）。
2. <Magic xpiインストール先>\Runtime\OS_Service\scripts フォルダに移動します。
3. **Install_MagicMonitor_services.bat** スクリプトを実行します。これでMagic Monitor Serverサービスがインストールされます。
4. Windowsのサービス画面を再表示し、Magic Monitor Serverサービスがインストールされていることを確認します。

i Magic Monitor Serverサービスを開始する前に、GigaSpaces関連の設定 (**LOOKUPGROUPS** や **LOOKUPLOCATORS** 変数) が以下のフォルダにある **runwebmonitor.bat** ファイルに正しく設定されているかを確認してください。：

<Magic xpiインストール先>\Runtime\RTView\magicmonitor

これは手動で確認するか、以下のファイルを実行することで確認します。：

<Magic xpiインストール先

>\Tools\MgxpiLookupUpdator\ MgxpiLookupUpdator.exe

Magic Monitor サーバサービスの開始

Windowsのサービス画面を開き、そこから**Magic Monitor Server**サービスを開始することができます。



言語サポート

英語以外の文字をビジネスプロセス、フロー、ステップの名前および説明の中で使用することができます。プロジェクト、リソース、サービス、変数の名前は、英語の文字またはマシンの言語でのみ記述できます。

Magic xpi日本語版のデフォルト言語は日本語です。他言語での使用はサポートされていません。以下の設定を確認します。:

- **Magic.ini** ファイルの**ConstFile**パラメータ。例えば、日本語の設定では以下のようになります。:
ConstFile =C:\Magic xpi x.x\Runtime\Magic xpa\mgconstw.jpn
- **Magic.ini** ファイルの**External Code Page** の設定(日本語は932)。
- コントロール パネル > 地域と言語オプション > 形式
- **Unicode対応でないプログラムの言語のシステムロケール** プロパティはコントロールパネルの地域と言語設定の管理タブにあります。

2 *Magic xpi*のファイル

この章では各Magic xpi のモジュールのファイル構造を説明します。Magic xpiの各種関連ファイルの保守を行うための情報を提供します。

Magic xpiインテグレーションプラットフォームのファイル

Magic xpi インテグレーションプラットフォームのインストールには、スタジオ、コンポーネント、サーバ、およびモニターモジュールを含むすべてのMagic xpi インテグレーションプラットフォームの全ファイル、およびMagic SoftwareのMagic xpa アプリケーションプラットフォームのフルインストールが含まれています。

i .NET 4.5.2 が必須です。Magic xpi によっては自動的にインストールされます。



以下の表はMagic xpi ルート フォルダ配下の各フォルダの内容を説明したものです。

フォルダー	内容
db	内部データベースインストールを手動実行する際に使用するデータベーススクリプト。
Extra	サンプルプロジェクトを含むサブフォルダー。
Help	Magic xpi ドキュメントフォルダー。
Runtime フォルダ配下:	
addon_connectors	ユーザ定義コンポーネントがこのフォルダに作成されます。
config	スペースの設定およびプロジェクトを実行するための各種設定ファイル。
Gigaspaces	コンピュータでスペースを実行するための各種ファイル。
Icons	Magic xpi コンポーネントが使用する画像がすべて格納されています。コンポーネントを開発した際はこのフォルダに画像を追加してください。
ifclib	各コンポーネントのソースファイルが格納されています。各コンポーネントはコンポーネントと同じ名称の別個のフォルダに格納されています。このフォルダ配下のファイルはMagic xpiスタジオでコンポーネントの設定時に使用されます。
java	Magic xpi JavaクラスとJARファイルが格納。
JRE	The Sun Java JREが自動的にインストールされます。
JRE8x64	The Sun Java JRE8 64-bitが自動的にインストールされます。
Logs	プロジェクト実行時に作成されるログファイルが格納されます。
scripts	Web関連スクリプトが格納されています。Webエイリアスがこのフォルダを参照しています。後述の64-Bitサポート セクションを参照してください。
Temp	Magic xpiが動作時に使用する一時ファイル格納先。



フォルダー	内容
Magic xpa フォルダ配下:	
Gateways	データベースゲートウェイ。
Messaging	メッセージキューイングに必要なファイル。

- i** Magic xpiをインストールするとシステムの**Common Files**フォルダ配下の**Magic xpi**フォルダにいくつかのファイルを保存します。このフォルダを削除してはいけません。

64-Bit サポート

Magic xpiをインストールすると、32ビットのリクエスター DLLが**scripts**フォルダにインストールされます。さらに **32bit**、**64bit** の2つのサブフォルダが作成され、それぞれのDLLが格納されます。



3

コンポーネントの設定

この章ではコンポーネントのセットアップ要件について説明します。

• Directory Scanner
• Domino
• Dynamics AX 2012
• Dynamics CRM
• Email
• Encryption
• Exchange
• File Archive
• File Management
• File Splitter
• FTP
• Google Calendar
• Google Drive
• HL7
• HTTP
• IBM i
• JD Edwards Enterprise One
• JD Edwards World
• JMS
• LDAP
• Magic xpa Utility

• Microsoft Excel
• Microsoft Word
• MQTT
• MSMQ
• .NET Utility
• Notes DB
• OData
• REST Client
• Salesforce
• SAP A1
• SAPB1
• SAP R/3
• ServiceMax
• SharePoint
• Sugar
• TCP Listener
• Validation
• WCF Client
• WebSphere MQ
• XML Handling
• XSLT



Directory Scanner

特別な準備は必要ありません。

Domino

【クライアントAPI 使用時：V5.5 以降をサポート】

Domino コンポーネントを使用するには**Lotus Notes** クライアント VR5.5以降がマシンにインストールされていなければなりません。加えて以下の情報を取得しておく必要があります。:

- Notesサーバ名
- Notesデータベース名とパスワード

Dominoコンポーネント使用前に以下を実行/確認してください:

- **Notes.jar**ファイルを<Magic xpiインストール先>\Runtime\Java\lib にコピーします。この .jarファイルはLotus Notesクライアントのインストールフォルダー配下に存在しています。

【サーバAPI 使用時：V5.5 以降をサポート】

サーバAPI を使用するには、DominoサーバとHTTP 及びIIOP で通信が可能な状態になっている必要があります。Dominoサーバの設定方法につきましては、IBM社のサイトをご確認下さい。

Dominoコンポーネント使用前に以下を実行/確認してください:

- DominoサーバとHTTP 及びIIOP で通信が可能な状態になっている場合、以下の URL がブラウザで参照可能となっているはずです。

`http://DominoServerName:63148/diioop_ior.txt`

- **NCSO.jar**ファイルを<Magic xpiインストール先>\Runtime\Java\lib にコピーします。この .jarファイルは**Lotus Notes**サーバのインストールフォルダー配下に存在しています。



【クライアントAPIとサーバAPIの違いについて】

- ・ クライアントAPI の場合
UserID : NotesClinet のID ファイルのフルパスを指定します。
RemoteAccess : No を指定します。
- ・ サーバAPI の場合
UserID : Notes のユーザ名を指定します。(例) MAGIC TEST/MSJ
RemoteAccess : Yes を指定します。

Dynamics AX 2012

Magic xpi スタジオおよびMagic xpiサーバでDynamics AX 2012コネクタを使用するには、コンピュータに.NET Framework 4.5.1以降がインストールされている必要があります。コネクタで使用するサービスは、Dynamics AXサーバ上のApplication Integration Framework(AIF)の受信ポートとして最初に定義する必要があります。

Windows SDK 8.1以降を開発時に使用するコンピュータにインストールする必要があります。これは開発時には必須ですが、サーバでの実行時には必須ではありません。

Dynamics CRM

Dynamics CRMコネクタを使用するには、有効なDynamics CRMアカウントが必要です。技術的な前提条件はありません。追加のjarファイルは必要なく、クライアントのインストール也不需要ありません。

Email

Email コンポーネントを使用してメール サーバにアクセスするには以下の情報が必要です。:

- ・ **SMTP / POP3 / IMAP** サーバのアドレス
- ・ それぞれのサーバのユーザ名とパスワード



Encryption

特別な準備は必要ありません。

Exchange

Exchangeコネクタを使用するには、以下の情報が必要です。:

- Exchangeアカウント
- 有効なユーザ名
- 有効なパスワード

File Archive

特別な準備は必要ありません。

File Management

特別な準備は必要ありません。

File Splitter

特別な準備は必要ありません。

FTP

特別な準備は必要ありません。

Google Calendar

Googleカレンダーコンポーネントを使用するには、OAuth 2.0認証フローを完了する必要があります。詳細は、*Magic xpi*ヘルプの「*OAuth 2.0 Authorization*」トピックを参照してください。

Google Drive

Googleドライブコンポーネントを使用するには、OAuth 2.0認証フローを完了する必要があります。詳細は、*Magic xpi*ヘルプの「*OAuth 2.0 Authorization*」トピックを参照してください。

HL7

特別な準備は必要ありません。
日本ではサポートされません。



OUTPERFORM THE FUTURE™

HTTP

HTTP コンポーネントの使用およびプロキシ サーバを使用してWeb サイトにアクセスするには**Magic.ini**ファイル内[MAGIC_ENV] セクションの以下の行を設定する必要があります。:

HTTPProxyAddress = <ProxyAddress>:<Port>

- 例: 10.9.3.16:8080

HTTPTimeout = <Timeout>

- 例: 5000

i Magic xpi フロー内でトリガーとして使用するにはWeb サーバが必要です。

IBM i

IBM iコネクタを使用してIBM iサーバにアクセスするには、Magic xpiホスト・ライブラリーをIBM iサーバにインストールする必要があります。

JD Edwards Enterprise One

JDEコネクタを使用するには「JDE Dynamic Java connector」が必要です。この「JDE Dynamic Java connector」がMagic xpi がインストールされているコンピュータ上で正しく設定され、正しく動作していなければなりません。JDE のインストーラーが提供するJDE Dynamic Java connector のサンプルプログラムを用いてテスト/ 確認を行うことができます。

JD Edwards World

JDE World コネクタを使用するには、DB2/400 データベースサーバにアクセスできる必要があります。



JMS

JMSコンポーネントを使用するには、JNDI(Java Naming and Directory Interface)を使用してスタンドアロンJavaクラスからJMSサーバーに接続する必要があります。スタンドアロンクラスで使用されているのと同じパラメータとJarをMagic xpi JMS設定に使用することもできます。

LDAP

特別な準備は必要ありません。

Magic xpa Utility

特別な準備は必要ありません。

Microsoft Excel

Microsoft® Excel コンポーネントを使用するには、Magic xpi がインストールされたコンピュータ上にMicrosoft® OfficeXP 以降、あるいはExcel2002 以降がインストールされている必要があります。

このコンポーネントを使用するにはMicrosoft Excel に関する知識も必須です。リリースノートの「既知の問題と使用上の制約」を必ずご覧ください。

Microsoft Word

Microsoft® Word コンポーネントを使用するには、Magic xpi がインストールされたコンピュータ上にMicrosoft® OfficeXP 以降、あるいはWord 2002 以降がインストールされている必要があります。

このコンポーネントを使用するにはMicrosoft Word に関する知識も必須です。リリースノートの「既知の問題と使用上の制約」を必ずご覧ください。

MQTT

MQTTコネクタを使用するには、MQTTサーバーにアクセスする必要があります。



MSMQ

MSMQ コンポーネントを使用するには、使用するコンピュータにMSMQ サービスがインストールされていなければなりません。またMSMQ コンポーネントを使用してアクセスするキューも定義されていなければなりません。

.NET Utility

.NETユーティリティを使用したMagic xpi プロジェクトを実行するには、.NET framework がインストールされている必要があります。

.NETユーティリティのソースコードを編集するには、Microsoft Visual Studio .NET を別途購入する必要があります。

Notes DB

DOMINOの項をご参照ください。

OData

特別な準備は必要ありません。



REST Client

REST Clientコンポーネントおよびプロキシ サーバを使用してWeb サイトにアクセスするには**Magic.ini**ファイル内[MAGIC_ENV] セクションの以下の行を設定する必要があります。

HTTPProxyAddress = <ProxyAddress>:<Port>

- 例: 10.9.3.16:8080

プロキシサーバアドレスは、実際にプロキシサーバ環境下で使用する場合にのみ設定する必要があります。

REST Clientコンポーネントのタイムアウトを更新するには、**Magic.ini**ファイルの[MAGIC_ENV]セクションにある次のエントリの値を変更します。タイムアウトのデフォルト値は0です。ここで、デフォルト値0は120秒として扱われます。

HTTPTimeout = <Timeout>

- 例: 5000

Salesforce

Salesforceコネクタを使用するには、以下を所有している必要があります。:

- Salesforce AppExchangeから利用可能なMagic xpiアプリ。アプリケーションのインストールについては、*Magic xpi*ヘルプの「*Magic xpi Salesforce Appをインストールするには?*」トピックを参照してください。Magic xpiヘルプのトピックを参照してください。
- Magic xpi salesforce.com ライセンス。
- OAuth認証手続きを行うためのSalesforceの有効な資格情報。

SAP A1

SAP A1 コネクタを使用するには、SAP A1 に関する十分な知識が必要です。またSAP A1 に接続できる環境が必要です。

SAPB1

SAPB1 コネクタを使用するには以下が同一ネットワーク上にインストールされている必要があります。:

- SQLデータベース
- SAP Business One server tools
- SAPB1 Data Interface API

SAPB1コネクタはSAP Business One 2004, 2005, 2007, 8.8, 9.xをサポートします。

SAP R/3

SAP R/3(SAP ERP) コネクタを使用するには、SAP R/3(SAP ERP) に関する十分な知識が必要です。またSAP R/3(SAP ERP) に接続できる環境が必要です。SAP R/3(SAP ERP)コネクタはバージョン4.6c 以降をサポートしています。

ServiceMax

ServiceMaxコネクタを使用するには、以下を所有している必要があります。:

- Salesforce AppExchangeから利用可能なMagic xpiアプリ。アプリケーションのインストールについては、*Magic xpi*ヘルプの「*Magic xpi Salesforce App*をインストールするには？」トピックを参照してください。Magic xpiヘルプのトピックを参照してください。
- Magic xpi ServiceMaxライセンス
- OAuth認証手続きを行うためのSalesforceの有効な資格情報

Sharepoint

Sharepointコネクタを使用するには、Sharepointサーバにアクセスする必要があります。:



OUTPERFORM THE FUTURE™

Sugar

Sugarコネクタを使用するには、Magic xpi Sugarライセンスを購入する必要があります。技術的な前提条件はありません。

TCP Listener

特別な準備は必要ありません。

Validation

特別な準備は必要ありません。

WCF Client

Magic xpi スタジオおよびサーバ実行時にWCF Clientコネクタを使用するには、コンピュータに.NET Framework 4.5以上がインストールされている必要があります。

Windows SDK 8.1以降を開発時に使用するコンピュータにインストールする必要があります。これは開発時には必須ですが、サーバでの実行時には必須ではありません。

Magic.iniファイルに**SVCUtil**, **SvcConfigEditor**, **DotNetCompiler** フラグを設定する必要があります。

WebSphere MQ

Magic xpi WebSphere MQ コンポーネントを使用するには、Magic xpi がキューにアクセスできるように、ネットワーク内にWebSphere MQ サーバと使用するコンピュータにクライアント ソフトウェアがインストールされていなければなりません。



XML Handling

XML Handlingコンポーネントを使用するには、XML の動作に関する基本的な知識が必須です。

XSLT

特別な準備は必要ありません。

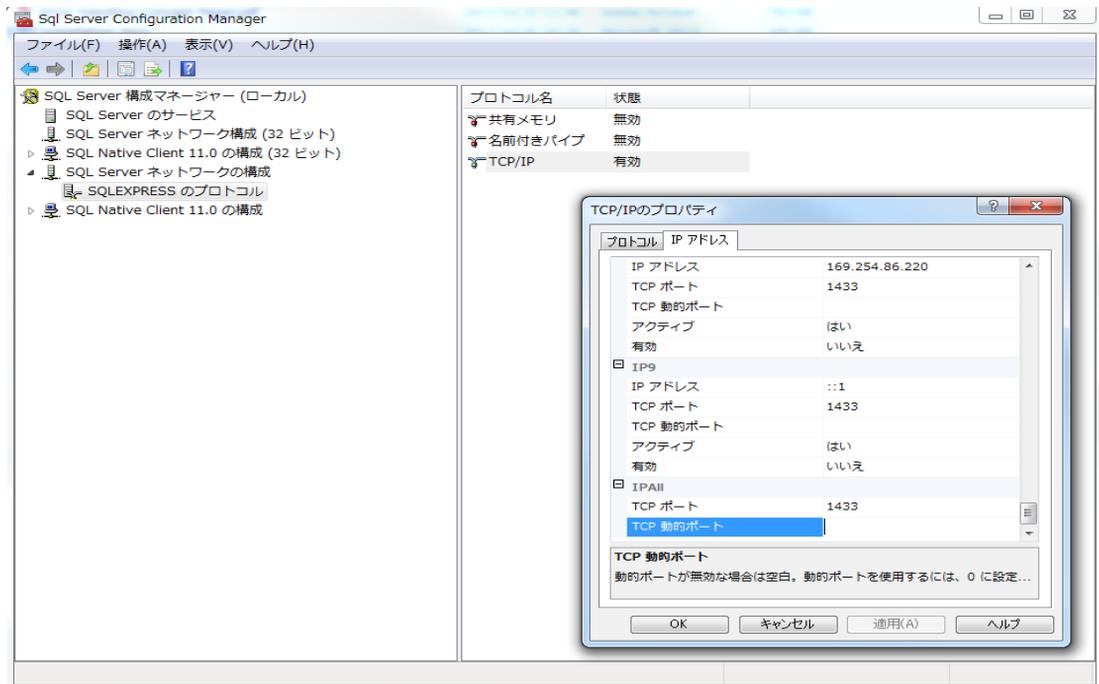
4 Magic xpiインストール後の作業

この章では、Magic xpiインストール後の作業について説明します。

MSSQLの設定

「SQL Server構成マネージャ」を使用し、「SQL Serverネットワークの構成」で「TCP/IP」を有効にし、特性タブで「IPALL」にポート1433を割り当てます。

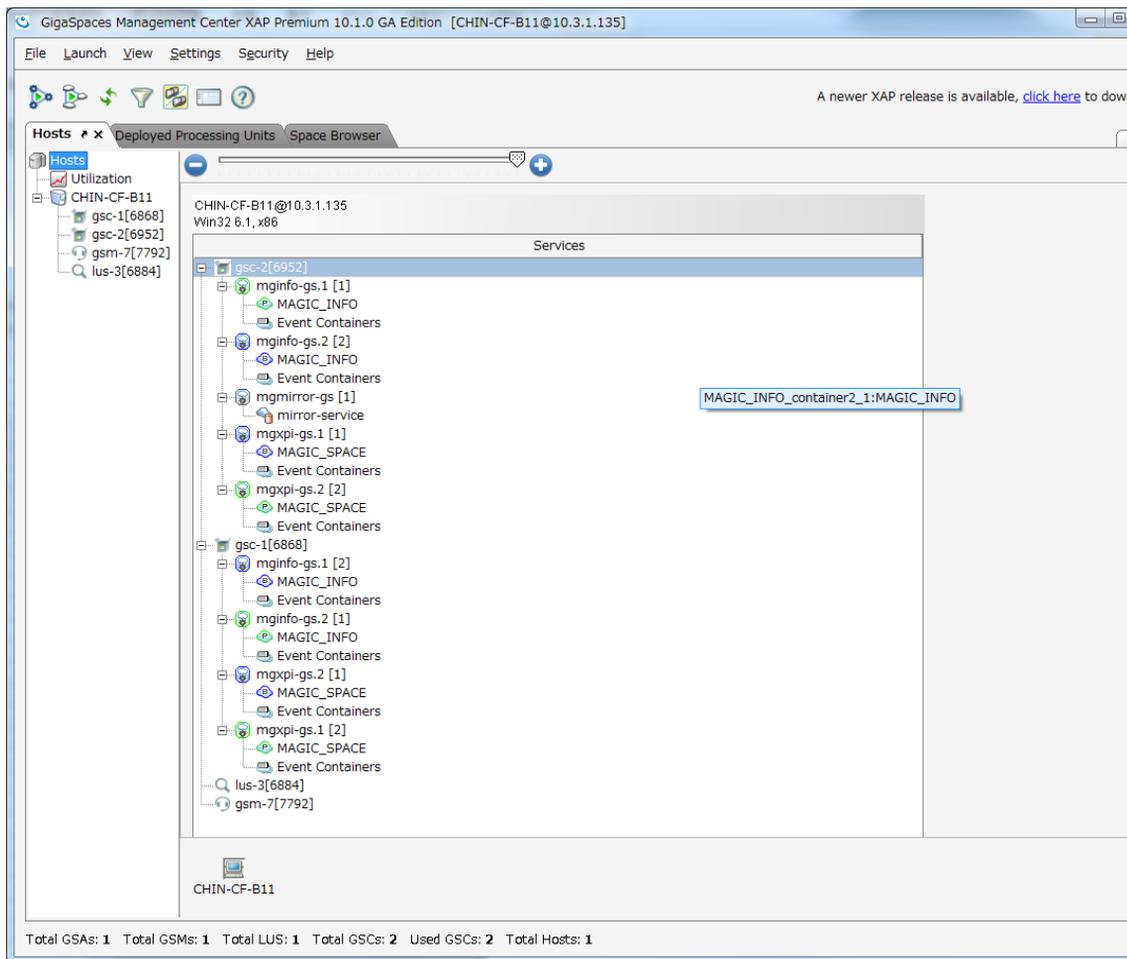
例：



GigaSpacesの確認

「GigaSpace UI」を使用し、「GSC」コンテナ内に「MAGIC_INFO」と「MAGIC_SPACE」が存在することを確認します。GigaSpacesが正しく動作するにはこの「MAGIC_INFO」と「MAGIC_SPACE」が両方存在している状態である必要があります。

存在しない場合はWindowsのサービス等でGigaSpacesを再起動します。



The screenshot displays the GigaSpaces Management Center interface. The main window shows a tree view of the system components. The selected container is 'gsc-2[6952]', which contains several sub-components. A callout box highlights the 'MAGIC_INFO_container2_1:MAGIC_INFO' service, indicating its presence within the container. The status bar at the bottom shows the following summary: Total GSA: 1, Total GSM: 1, Total LUS: 1, Total GSC: 2, Used GSC: 2, Total Hosts: 1.

5 Magic xpi ライセンス

この章では、Magic xpiライセンスとその管理方法について説明します。

ライセンス管理

Magic xpi は各製品毎に個別のライセンスが必要です。:

ライセンス	説明
Studio	このライセンスでは以下を行うことができます。: <ul style="list-style-type: none">• Magic xpi スタジオの起動• Magic xpi プロジェクトの開発• デバッガでのプロジェクトのデバッグ
Server	このライセンスでは、Magic xpiサーバを実行できます。
Monitor	このライセンスでは、Magic xpi Monitor Serverを使用できます。

ライセンスタイプ

The following table shows the various parts of the Magic xpi license file.

名称	説明
IBNPSTD	Magic xpiスタジオのライセンス。
IBMON	Magic xpiモニタのライセンス。注: このライセンスではMagic xpi スタジオを起動することはできません。
IBNPSRV	テスト用Magic xpi サーバライセンス。このライセンスでは24時間以上Magic xpi サーバを連続稼働させることはできません。
IBPRSRVI	本稼働用Magic xpi サーバライセンス(インテル環境用)。



OUTPERFORM THE FUTURE™

Magic xpi ライセンスファイルのインストール

ユーザ登録用紙を Magic Software Japan K.K. に送付あるいはユーザ登録サイトより必要情報を入力すると、e メールにてライセンスがファイル(以下ライセンスファイル)としてお客様に送付されます。

ライセンスファイルをインストールするには:

1. メールにて送付されたライセンスファイル(License_XXXXXXX.dat : XXXXXXXはシリアル番号) を適当なフォルダーに保存します。
2. License_XXXXXXX.dat ファイルを**License.dat** に改名します。
3. Magic xpi インストールフォルダに**License.dat** ファイルをコピーします。
4. 以下のいずれかのライセンスがサーバの**ifs.ini** ファイルの [MAGIC_ENV]LicenseName セクションに設定されていることを確認します。:

- **IBPRSRVI**

- **IBNPSRV**

.iniファイルのライセンス名がライセンス自体のライセンス名と一致しない場合は、関連するログファイルに次のエラーが表示されます。:

“Failed to set the license file parameters.”

ライセンスFeatures

以下のライセンスは個別に発行され、別売商品として別途購入が必要な場合もあります。ライセンス ファイルがメールで届いたとき、購入したアダプタ/コネクタのライセンスが正しく含まれているかを確認してください。

License	Description
IBA1	SAP A1アダプタのライセンス (別売)。
IBDYCRM	Dynamics CRMアダプタのライセンス (別売)。
IBHL7	HL7アダプタのライセンス (別売)。
IBJDE	JDE E1アダプタのライセンス (別売)。
IBNotes	DOMINOおよびNotesDBアダプタを使用するためのライセンス。
IBR3	SAP R/3アダプタのライセンス (別売)。
IBSBO	SAP Business Oneアダプタのライセンス (別売)。
IBSFDC	Salesforceアダプタのライセンス (別売)。また、Salesforce AppExchangeからMagic xpiアプリをインストールする必要があります。アプリケーションのインストールについては、Magic xpiヘルプの「Magic xpi Salesforce Appをインストールするには？」を参照してください。
IBSHAREP	SharePointアダプタのライセンス (別売)。
IBSystemi	IBM i アダプタおよびDataMapperでDB2/400にアクセスするためのライセンス。
IBEXCHANGE	Exchange 2007アダプタのライセンス。
IBJDEWRLD	JD Edwards Worldアダプタのライセンス (別売)。
SERVICEMAX	ServiceMaxアダプタのライセンス (別売)。
SUGCRM	Sugarアダプタのライセンス (別売)。
DYNAX	Dynamics AXアダプタのライセンス (別売)。

注: 上記のライセンスはMagic xpi サーバで実行する際にチェックされます。Magic xpi スタジオでの開発時にはすべてのアダプタを使用することができます。



A

システム前提条件

この付録では、Magic xpiサーバーをコンピュータにインストールするための最小システム要件とデータベース要件について説明します。

システム前提条件

開発環境

- **メモリー:** 少なくとも4GB以上
- **空きディスク容量:** 少なくとも2GB以上
- **オペレーティングシステム:** Windows 7、8、8.1、10
- **Webサーバ:** インストール時にIISが必須

実行環境

- **メモリー:** 少なくとも8GB以上
- **CPU:** 少なくとも4つの実コア(または予約された仮想コア)が2.4Ghz以上で動作
- **ネットワーク:** ギガビット イーサネット
- **空きディスク容量:** 少なくとも2GB以上
- **オペレーティングシステム:** Windows server 2012、2012R2、2016
- **Web Server:** インストール時にIISが必須



注:

- IIS7環境下でMagic xpi を稼働させるには、各種必要な設定を行う必要があります。詳細は「*Magic xpi Help*」内の「*Magic xpi をIIS7 での環境で実行する*」をご覧ください。
- 上記システム前提条件はMagic xpiサーバのみをインストールする際の条件です。他のMagic xpiモジュールをインストールする際の条件ではありません。
- 上記はシステムの最低限の前提条件でプロジェクト固有の条件は考慮されていません。
- 上記は他のソフトウェアの実行やコンポーネントの設定等条件を考慮しているものではありません。

データベース前提条件

Windows プラットフォームにMagic xpi サーバをインストールする際は以下のデータベースを使用する必要があります。:

- Oracle Database Server 11g, 12c
- Microsoft SQL Server 2008, 2008R2, 2012, 2012R2, 2014

データベースはMagic xpi サーバと同じマシンに存在する必要はありませんが、同一マシンでない場合はMagic xpi サーバをインストールするマシンに各データベースのクライアントソフトウェアをインストールする必要があります。

内部データベースプラットフォームサポート

下表は各プラットフォームでの内部データベースサポート状況を示しています。

データベース	Windows	Linux
MSSQL 2008	✓	
MSSQL 2012	✓	
MSSQL 2014	✓	
Oracle 11	✓	✓
Oracle 12	✓	✓

